



## お出かけに持って行くカメラ Best 3

- ① ふちんかん
- ② 鯨飲馬食
- ③ 長く続けよう

忍び寄る老化とは対照的にあちこち訪れたいという気持ちは弱まらず、ちょっとだけ松尾芭蕉もこんな気持ちやったのかなあと想像している今日この頃。

…さてお出かけと言えばカメラ。今回は最近のお出かけのお供（撮影関係）Best3です。

### 3. コンパクトデジカメ

学生時代から写真にはたいへん深く関わり、撮影のみならず、フィルムの実像やプリントまでやっていた。カメラもセミプロ仕様の機種やレンズも何本もそろえて、重たいカメラケースを携えて、あちらこちらへ（主に鉄道写真がらみの）旅をしていた。

しかし、体力の低下で巨大なカメラシステムの持ち運びがおっくうになってきたこと、コンパクトデジカメですら高性能になってきたこと。そしてそもそも撮影の目的が、「作品作り」から「記録・記憶の補助」へと変化してしまったこと。これらの理由により、最近はコンパクトデジカメ（Fuji XQ-1）がメインになっている。



### 2. 360度カメラ

写真とは自分の感動を写真を通じて見る人に伝えられるか、そのために撮影は風景をいかに「切り取る」か。これまでの「思想」とも言えるカメラ観をくつがえすのが、360度カメラだ。見る人の視点を制限するのではなく、すべて見せ、見る人に方向や画角を選んでもらう。発想の転換を促すカメラだ。

すべての方向を記録するため、2つのレンズで撮影し合成するので歪みもあるし、画素数も足りない。見せ方もプリント1枚というわけにはいかず、VRグラスやPCアプリなどが必要になってくる。しかしこれまで作品の周囲の切り捨ててきたものまで残るので、記録という点では、優れているように思う。「GoProMAX」を使用中。



### 1. ドローン

視点が地面から離れた状態で撮影できるという画期的なガジェット。そして高さだけでなく、位置も、角度もまさに自由変えることができる。鳥（というか幽体離脱か）の視点で撮影できる。

被写体だけでなく光の回り具合や背景の選択など自由な位置から撮影できるというのは、納得のいく写真を追求できるということだ。自身の撮影の目的が「作品作り」から変化した旨を書いたが、それでもここ！という場面で、良いものを撮りたいという気持ちが無くなったわけではない。そんな気持ちを多に蘇らせてくれた存在である。

お出かけには航空法の規制を受けない超小型の「Mavic mini」を愛用している。

